

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1276800081		
法人名	社会福祉法人 長生会		
事業所名	グループホームだるまさん		
所在地	千葉県長生郡長生村宮成3496		
自己評価作成日	平成30年1月11日	評価結果市町村受理日	平成30年3月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2-10-15		
訪問調査日	平成30年2月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者個々の尊厳を守り、心身の状態に応じて可能な限り自立した日常生活を送れるよう支援しています。毎日夕方からの入浴、畑作業、意向に応じた食事の時間、馴染みのある地域のイベントに参加、近所のスーパーへ買い物にも出掛けます。
四季折々の風景が楽しめ、隣接した尼ヶ台総合公園でリハビリを兼ねた散歩や運動が行え、盆踊り大会やC-1グランプリ等のイベント参加もでき、海から5~6kmの距離にあるので地引網への参加や津波第一避難所に指定もされています。
地域の方々(57戸)の協力により、自主防災組織が立ち上がり、防災訓練、避難訓練と一緒に実施しています。施設行事である夏祭り、敬老会、クリスマス会等にも、ご協力を頂き「地域との絆作り」「地域に開かれた施設」を目指しています。地元の中学校との交流会、職場体験、施設行事のボランティア活動にも協力して頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1)「アイデアを活かした柔軟な介護」の理念が職員に浸透し職員は創意・工夫を重ね、考える介護が実践されている。自立を支援して介護度の軽減を図ることを目標に掲げ、利用者個々の失った能力を引き出す支援に努めている。ペース食から常食、家族が驚くほどの歩行能力改善など、嬉しい体験を積み重ね職員同士共有し、介護の仕事に働き甲斐を得ている。2)家事の好きな利用者は調理を行い、掃除、雑巾づくり、畑仕事を行うなど一人ひとりの役割があり居場所作りができています。3)管理者は認知症の方に対する正しい知識と理解を深めていくことを、大切な目標の一つとし取り組んでいる。実現化の為に、地域との交流拡大を図り、種々の取り組みを行い自治会の行事に参加し、近隣と協力して自主防災組織を立ち上げ、施設を防災避難拠点として提供するなど、地域との連携強化に努めている。4)ホームでは年間延べ500名以上のボランティアが訪れ利用者の笑顔が絶えない。利用者は買い物、散歩に出かけ、村のイベントに参加して交流し、自然に地域に溶け込むホームづくりに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し、職員間で共有している。理念の一つでもある「アイデア」を活かせるよう職員間で意見交換を行える工夫をしている。	管理者は「アイデアを活かす」の理念のもと職員に創意・工夫・チャレンジするよう求めている。職員は常に利用者支援について皆で意見を出し合い、改善に結び付く提案などを共有しサービスに反映させて理念の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	当法人主催の防災訓練や地域の村の避難訓練、ゴミゼロ運動、地引網、C-1グランプリ等に参加している。イベントの一部ではだるまさんの特設ブースを設けている。また、当法人主催の夏祭り、運営推進会議、行事等にはたくさんの方々が参加し協力をして下さる。	認知症に対し正しく理解してもらう地域づくりに取り組んでいる。実現化の為に地域との交流拡大を図り種々の取り組みを図っている。自治会との災害時協力体制が得られ、村の避難訓練等に参加している。法人主催の夏祭りには地域住民200～400名の参加協力を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のイベントや近所のスーパーにご利用者や買物へ行き、理解を得る様にしている。また、代表と管理者は中学校や地域自治会に講演を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議当日、ご利用者と参加者、ご家族と一緒にお茶会やゲームを楽しんで頂いたり、現状報告し、そこで感じた事等の意見交換を行い、サービス向上に活かしている。また、その様子を動画等で紹介している。	地区の老人クラブ会長や民生委員、家族代表の参加を得て運営推進会議が年3回開催されている。会議では利用者の日常生活をビデオ紹介し、取り組み状況の報告や意見交換などが実施されている事が議事録から確認できた。	より多くの外部意見収集の為に家族の参加を増やす事や、消防署、警察職員等多岐にわたる関係者の参加が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	代表が村役場の介護保険運営協議会委員としても村の事業計画作成等に協力している。また、村社会福祉協議会の評議員として福祉介護の協力関係を築いている。運営推進会議の参加や施設の空き情報をその都度報告している。	計画作成責任者は村役場内にある地域包括支援センター職員と連絡をとり、協力し合っている。また、施設長は村役場の介護保険運営評議員や社会福祉協議会の評議員を努め、村役場との連携を密にして協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者が中心となり、日々の仕事内で拘束について指導し、職員間でも注意し合い、スピーチロック・ドラッグロック・フィジカルロックの身体拘束ゼロに取り組んでいる。また、日中は玄関等施錠をしないケアを実践している。	身体拘束ゼロの介護を徹底させている。他職員の言葉による拘束等に対しては、職員間で注意し合い、改善策を「連絡ノート」に積極的に記入し、情報を共有すると共にカンファレンスで話し合い、拘束をしない支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払	身体拘束ゼロに伴い、日々の仕事内で虐待について話し合い、虐待の防止を徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	職員それぞれが制度に対して知識を取得する為に研修に参加するなど努力している。また、ご家族とは情報の提供・相談を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前、ご利用者やご家族等と面談を行い、契約時は契約書、重要事項等を用いて口頭説明し、不安や疑問にも答えた上で、理解と納得を得ている。改定時も書類を用意し同様に説明を行い、理解と納得を得ている。それぞれに署名を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族へは、面会、運営推進会議、家族交流会、行事等の参加を事前に呼びかけ、ご家族とのコミュニケーションの機会を設けている。ご利用者やご家族と日々のコミュニケーションで意見交換や要望を聴き、素直に受け止め運営やサービス向上に反映させている。また、ご家族には毎月利用料やお小遣い使用料と共にご利用者の写真入りのお手紙にて知らせている。	家族の来訪時には管理者や居室担当者が積極的に声掛けを行うなど、家族との連携に努めている。運営推進会議や家族交流会等で家族からの意見・要望の収集に努めている。職員は利用者の「食べたい物」などを聞き出し、外食や献立に反映させ要望に応えるようにしている。利用者・家族の意向は連絡帳に記し、職員間で共有して即改善に結び付けている。	「意見箱」が設置されているが、活用度が低いという気付きがある。家族が意見・要望を気軽に伝えられるための、ご意見はがき等の新たな取り組みが期待される。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー会議やカンファレンス、日々の仕事内で代表や総務課長、管理者が立ち合っていることや、代表が年2回職員との個別面談にて意見や提案を聴き、運営改善に取り入れている。また、日頃から管理者が職員と個人面談し、働きやすい環境づくりをしている。	施設長、管理者は、普段から職員に積極的な声掛けを行い、何気ない会話を通じて職員が意見や提案を言いやすい関係性を築けるよう努めている。提案や課題は、気軽に受け止め、今出来る事は即対応し、サービスに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表は年2回職員との個別面談を行っている。また、代表や管理者は日頃から現場を観たり、カンファレンスに参加しコミュニケーションを取り、意見や提案を聞き入れ、職員が目標と向上心、やりがいをもち、ストレスケアも行い働きやすい環境に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は初任者研修養成校の講師をしている。毎月の内部研修・外部研修への参加、地域密着型外房連絡会(当法人が会長として研修計画・研修を行っている)。に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外房連絡会会長を代表者が行い、同業者と交流・情報交換や定期的に(年10回程度)研修会を実施している。管理者は介護福祉士の会員でもあり交流を広げている。また、他のグループホームへご利用者を交え訪問し交流する事で、支援や運営の向上に意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人と面接しアセスメントを取り、ご本人の状態、要望、趣味特技に応じた支援ができるように、他部署や医療機関と連携し必要なサービス提供に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族等が来訪した時や電話で話をよく聴き状況や不安・悩み事等の思いを受け止められるように努めている。サービス提供前にも要望等を聴いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の能力や要望、ご家族の要望を伺い、一番良いサービスや支援方法は何か、他部署や医療機関と連携し、サービスの利用を一緒に考えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ空間で調理、掃除、洗濯、散歩、畑仕事、体操、余暇活動等をして、一緒に生活していると感じてもらえるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には病院受診、行事や運営推進会議(お茶会)、外出や外泊に協力して頂いており、本人とご家族との時間を支援している。その都度、本人の状態、要望、生活の様子等をご家族へ伝えていく。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者が村の文化祭、産業まつり、小・中学校の運動会、近隣のスーパー、地域施設等、馴染みのある場所へ出掛け、人や社会との交流を大切にしている。近隣の方や昔馴染みの方と行き合い話しが弾むこともある。年1回の村の文化祭に作品を出展し、展示会参加等社会貢献にも努めている。	地域の方々との触れ合いを大切に、近隣のスーパーに買い物に出かけ、村の文化祭、産業祭り、盆踊り大会等に参加し交流を深めている。知人の来訪時には居室に案内し職員はお茶を出すなどしてゆっくり過ごせるよう配慮している。利用者は民謡やカラオケなどのボランティアの来訪を楽しみにするなど、馴染みの関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の能力に応じて、掃除、洗濯、自炊、買い物、余暇活動、機能訓練、散歩、畑作業、日光浴、入浴等で利用者様同士の交流の場を提供している。利用者様同士で協力や助け合うことがある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談や支援をしている。また、初代家族会会長が母親が逝去後もいまだに運営推進会議委員の顧問として参加して頂き、意見や相談に協力して頂いている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その日その時のご利用者の要望や訴えを汲み取り、ご家族にも協力して頂きながら、利用者様個々に添った思いや要望に支援ができるように努めている。また、言語による感情が少ないご利用者は動作や表情から要望や訴えを汲み取っている。ご利用者個々の生活スタイルやペースに合わせることにも努めている。	職員は日々共に過ごす中で得る利用者のつぶやき・できること・支援に対する反応等の把握に努め連絡ノートで情報を共有している。利用者の思いは職員間でよく話し合っており、一人ひとりの要望や訴えをくみ取り、日々の支援に活かしている。家族からは、利用者の思いや願い要望を分かってくれているとの、評価の声が多く寄せられている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々過ごしていく中で分かってくる情報や変化、言葉、要望、ご家族からの情報を記録に残し、職員間で情報共有し、適切な支援、サービス提供を出来るように努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態を毎日記録に残し、可能な限り有する能力に応じて自立した生活ができるように、日々の状態変化を職員間で話し合い適切な支援を検討している。 また、ちょっとした変化に気付ける様にバイタル、食事量、水分量、排泄チェックや様子観察している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスや日常でも話し合いながら、可能な限り有する能力に応じて自立した生活ができるように機能訓練や支援の見直しを行っている。また、ご家族や医療機関と利用者様と定期的に話し合い、介護計画を作成している。	毎月のカンファレンスで利用者のケア内容や対応を話し合い、課題となった案件は介護計画に反映させ全職員で共有している。介護支援専門員はモニタリングや定期的開催されるサービス担当者会議で提案された利用者、家族、職員の意見を取り入れ、介護計画の作成にあたっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	独自の書式(ツール)を作成・使用し、利用者様の状態を把握・分析している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の心身の状態やご家族の負担、ニーズ、経済面等の状況に応じて、他部署や医療機関等と連携を取り、臨機応変に対応できるように管理者が中心となって取り組んでいる。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事や教育機関、他施設の行事、グランドゴルフ、公園、花見、スーパー、飲食店を活用し、地域の人々と交流をもてる支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族と連絡を密にし、かかりつけ医へ家族付添い受診を大切にしている。場合によっては、事業所の協力病院と連携を取ることや、職員付き添いで受診している。	かかりつけ医への受診は原則家族対応であるが、職員が付き添い同行する場合もある。いずれも受診結果は事業所に報告され情報共有している。風邪・予防接種等場合によっては協力病院を紹介し、職員付き添いで受診する。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホーム看護師や、併設のデイサービス看護師(グループホームと兼務)に24時間連絡が取れ、日頃より気軽に相談・機能訓練の指導、実施をしてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	直接病院へ出向き、早期退院に向けて十分話し合ったり、日頃から個々の意思に相談に乗ってもらっている。また、インフルエンザ予防接種等を往診にて受けられるよう配慮している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様やご家族の要望を確認し、かかりつけ医より重度化していく過程の説明を受け、終末期の対応について助言・受け入れ先病院等の紹介の相談をしている。また、他部署にも相談し、サービスの検討をしている。	利用者が食事をとれなくなり、医療対応が必要になった場合には、利用者家族・代理人に連絡をとり、速やかに医療機関を紹介し、受診できるよう支援している。その後重度化から終末期のあり方について家族と相談し対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを備え、事故発生時等に対応できるようにしている。また、職員は普通救命講習を取得している。AEDを設置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練、炊き出し訓練、消火訓練等を地域住民と共同訓練を実施し、消防署の指導を受けている。地域の方々が自主防災組織を築き、その拠点となっている。村寄贈による防災倉庫も設置され、災害時の備品・食材等も備え地域の方々との備品の使い方の講習も受けている。	当施設は地域の防災避難拠点になっており、今年度は消防署指導のもと地域の方も参加して避難訓練2回、消火訓練1回実施した。居間の脇には80mの廊下があり、万一の火災に備えてスプリンクラー設置とともに、避難時に椅子等遮断物が消火の邪魔にならないよう注意を払っている。また災害に備えて非常食、備品を備えている。	夜間想定避難訓練を運営推進会議にはかり、非常時連絡・避難路・集合場所・人数確認・要した時間等、想定通りにできたかの確認をする取り組みを期待している。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の取扱いについては書面で同意書を頂いている。職員は法令順守や秘密保持に関する説明や同意を入職時のオリエンテーションや内部研修を受講し、個人情報の保護を徹底している。利用者様1人1人を尊厳し、プライバシーに配慮した声掛けや支援をしている。	個人情報の保護については、オリエンテーション、接遇研修等、年2回実施し、職員共有をはかっている。プライバシーに配慮した声掛け、トイレ誘導等徹底されている。また、さりげない介助、言葉遣い、名前の呼び方等具体的な言葉を使用して申し送りノートに記入し、職員の共有をはかっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の意思を言葉や表情、行動から汲み取り、自己決定できるように声掛けや支援を工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様個々の生活スタイルやペースをその時の心身の状態に合わせて、本人に確認しながら過ごせるようにしている。食事や入浴もその時の本人の気分に合わせて時間で提供している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪形や服装など個々の好みを大切に、買い物等の外出支援を行っている。 また、出張理美容師の協力も設けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様個々の好き嫌いを把握して、食事を提供している。利用者様と一緒に買い物から調理、準備、片付けを行っている。	利用者・職員一緒に、畑で収穫したトマト・ナス・大根等を使って調理している。食後に食器ふきを手伝う利用者もいる。またファミレスに出かけ食事を楽しむ、或いはゴルフ場のレストランでお茶する、出前をとる等楽しい時間を過ごしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の身体状況や体重変化に気付くように、毎日食事量のチェックと水分量のチェックを行い、定期的に体重測定している。必要に応じて、食事形態の調整をしている。また、食事前にビデオに合わせ嚥下体操をし咀嚼や嚥下能力の維持を図っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に応じた口腔ケアの支援をしている。また、訪問歯科による相談、指導、支援をしている。専門家による口腔ケアや嚥下についての研修にも協力を頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行い、個々の排泄パターンを把握している。必要に応じて声掛けし、排泄の失敗のない自立した支援に努めている。日中はトイレ誘導し、夜間は本人の希望に応じて、ポータブルトイレやオムツにしている。	立ち上がる・ソワソワする等職員は利用者の仕草を把握し、さりげなくトイレ誘導している。またトイレに行く間隔・習慣を確認して、夜間失禁していた利用者が職員付き添いで夜間トイレに行くまで回復した例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤等の薬に頼る事を極力やめ、個々の排便パターンを把握し、自然に排便できるよう乳製品や食物繊維を活用し、自然に近い方法で支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	自宅での生活に近付ける為に、毎日夕方から入浴の時間を基本として、要望があればいつでも入浴をできるようにしている。利用者様個々の意向を確認し、夕食前後か寝る前に入るのかを自己決定して個浴でゆっくりと入れる。また、バイタルチェックしその時の心身の状態に合わせて入浴している。	利用者の要望に合わせていつでも入浴できる体制をとっている。入浴前にバイタル表で利用者の体調確認し、ほぼ毎日入浴している。入浴事故防止のためすべり止めマットを用意し、職員が必ず付き添って入浴している。入浴をいやがる利用者には、冬場なら、今晚寒くなるからよく眠れるよう入りましょう等声掛けに工夫して入浴を誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースに合わせて、好きな時間に寝れるように臨機応変に対応している。また、日中の適度な活動、夕方からの入浴、室温、掛け物、明かりの調整を行い、気持ち良く眠れるように環境づくりをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効果、副作用、目的、量、時間、注意事項を考慮し、日々の変化の早期発見に努めかかりつけ医との相談を密にしている。また、確実に服用できるように服薬時のマニュアルに基いた支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日頃の様子観察、会話、コミュニケーションを取りながら日々の心身の変化を汲み取り、可能な限りできることはやって頂き、機能訓練、余暇活動、外出、趣味を活かし、物事の意欲向上を図り、協力しながら楽しく過ごせるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように	近隣の公園を利用し四季を感じられるよう散歩に出かけている。また、定期的に外食、買い物、ドライブ、お茶会を行っている。	利用者は隣接した尼ヶ台総合公園に散歩に出かける、或いは、近くの畑で農産物の収穫をする。牡丹園・バラ園に車でドライブに出かける等、外出支援が充実している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に小遣いは当法人で管理しているが、ご家族同意のもとご本人の能力に応じて買い物などで使えるよう支援している。スーパーでの買い出しの際や、野菜直売所での買い物にてお金を使うことの楽しみも体験している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人やご家族の要望に応じて支援している。居室には電話を個々にできるよう配線されている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った花や装飾を心掛けている。共有スペースでの音、臭い、物には注意し、ゆったり居心地の良い環境で生活できる。また、整理、整頓、清潔、清掃を心掛けている。	リビングの天井は高く吹き抜けがあり、光が差し込み壁には利用者が作成した作品が飾られている。利用者はゲームを楽しむ、或いは折り紙・造花づくりをして、くつろいでいる。イベントが多く当月の行事としてウクレレ・フラダンス・ハーモニカ演奏・ギター他が予定されており利用者が楽しく暮らせる工夫が盛りだくさんである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳みスペース、日当たりの良い場所にあるソファ、出入り自由なベランダ、席を決めず、使いやすい物の設置で、できる限り利用者が自由に快適に過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できる限り使い慣れた家具、食器、服、布団、小物等を持ち込んで頂いている。	居室は10畳の広さがあり、利用者は自身の部屋の掃除をし、整理整頓に努めている。畳敷の部屋もあるし自由に気ままに過ごせる仕様となっている。自宅から持ち込んだ仏壇・家具・テレビ・茶わん・箸・布団等居心地よく生活できるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者が自発的に物を使えるように配置している。居室、トイレ、浴室等はさりげなく看板、表札、のれんでわかるようにしている。		